

男子専科

東京：スタイル社, 1950—1993

1950(昭和25)年から43年間にわたり日本の紳士ファッションを追求しつづけた本誌は、初代編集長の吉田文雄氏率いる編集スタッフ全員が男性ということもあり、同時期にスタートした「男の服飾(後のMen's club、婦人画報社)」誌に比較して「男っぽさ」が売りの、やや硬派な感性を打ち出していたのが特色だった。本誌創刊号は我が国ファッション誌の草分け「スタイル」(1936—1952)の、臨時増刊としての「男子専科*」だったが、その「スタイル」誌自体の創刊号に原奎一氏(首相原敬の女婿、スタイリスト原由美子氏の尊父)によるメンズファッションのノウハウが掲載されている。本人は真夏の暑い最中でも必ず白い麻のスーツにボウタイでドレスアップして外出するというダンディなエッセイスト。その文中で「男もとくと自分自身の格好を研究するひまを見出すべきである」と説いたこの原奎一氏のダンディズムはまさにその後創刊された本誌の原点といえるだろう。

注文仕立ての紳士服が中心だった創刊当時にはライバル誌「男の服飾」を多分に意識する特集が目立ち、誌面を飾る男性モデルにも俳優の三橋達也、大木実、佐田啓二や、当時大学生だった柴田五郎(後の田宮二郎)など、いわゆるインテリ風イメージの人物を起用していた。「ダンディな大人のビジネスマンのための服飾マニュアル」をテーマにした当初の内容を見ると、まず一番目につくのがスーツの着こなし術。ネクタイの結び方、ズボンのはき方など、誰もが日課として経験することの手本を、誌上で格好いいモデルたちがマニュアル風に見せる。これが読者にうけて部数は順調に増加し、当時ここで取り扱われることが一流雑誌の証といわれた新宿・紀伊國屋書店の店頭に登場したのが、創刊からわずか半年後の快挙であった。

季刊から隔月刊になったのが1958年。翌59年にはA4変型から大判サイズになり、カジュアルスタイル、スポーツスタイルほかメンズアクセサリ関連など、メンズのファッションスタイルやアイテム全般を扱うファッション誌へシフトした。広告やPRページには既製服の店頭も反映して、有力メンズアパレルメーカーが登場しはじめた。そして1975年1月より月刊に。「男の服を究める」「男のファッションテクニクA to Z」「エグゼクティブなスーツスタイル研究」などを毎号特集し、人気も創刊から80年代にかけての一時期は、「Men's club」誌を上回る売上げをマークするほどだった。別冊シリーズも80年代後半までコンスタントに発行。「メンズウェア事典」「男のセビロ読本」「男の着こなしワードローブ図鑑」「ファッションナブルな男の着こなし学」「男のきもの読本」「プレザーブック」「男のインテリア」など特集タイトルを定番化し、本誌以上に評価を得た。さらに81年からは「dansen special」というシリーズも並行して刊行。第1号「プレザー読本」など、各号タイトルが別冊シリーズのタイトルと似ていて紛らわしい。ともかく本誌にとって80年代は充実期だった。

初代編集長の吉田(増田に改姓)文雄氏が発行人に就任後、60年代後半からは志村敏、貞岡宏幸、近藤恒介の各氏が編集長を担当。1993年の廃刊まで一貫して編集コンセプト「ダンディなメンズファッション哲学」を守りとおしたが、80年代後半から90年代にかけてはファッション市場全般がモード系、ストリート系に傾き、本誌協力アパレルの傾向もデザイナーズ・キャラクターズブランド

系に移行。「ISSEY MIYAKE MEN」「TOKIO KUMAGAI homme」「PASHU」「NEWS WEEK」「DEMOB」などのファッショナブルなメンズDCブランドが主力ページを占めた。ファッションのページではないが、当時の連載でエッセイスト高橋睦郎氏が担当した「THE BODY FORM」も特記したい。これは男の肉体美学を紹介するもので、フォトジェニックなメンズボディをビジュアルに掲載して、イタリアの「L'uomo vogue」の方向性を導入した。当時としてはまさに斬新な内容である。84、85年にかけて連載され、とくに硬派なメンズファッション誌としてのキャラクター確立に貢献したといえよう。後に「Brutus」や「Tarzan」がこれを参考している。

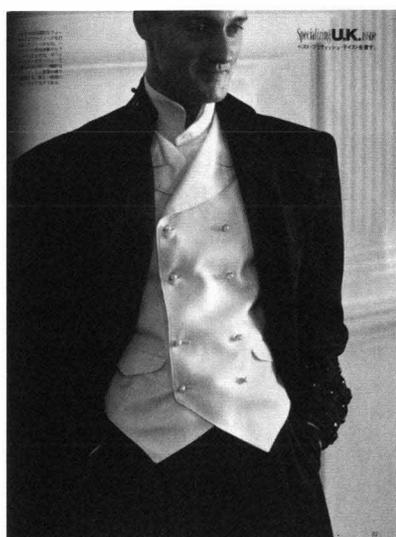
そして創刊40周年を迎えた1990年11月号。思えばこの号が「男子専科：Dansen」の頂点ともいべき集大成号で、最も本誌らしい仕上がりであった。3年後の廃刊を誰が予想しえただろう。大半を特集ページが占めるこの11月号のテーマは「英国。眺めのいい世界。」で、大人の感性を磨くファッション誌「DANSEN」の原点でもある「英国スタイル」が焦点。カジュアルウェアからフォーマルウェアに至るすべてのファッションをブリティッシュフレイバーで統一させて「大人のエレガンス&エグゼクティブ」を基調とした誌面が印象的だった。

1993年2月号をもって廃刊を決めた当時の発行人、近藤恒介氏のコメントを要約すると「やはり時代の流れを100%取り入れることに無理があった。メンズファッションのバリエーションが広がり過ぎたこと、そしてスタッフの大半がその傾向にギャップを感じつつけたこと、などがギブアップする要因」とのことである。1950年8月に「スタイル臨時増刊・男子専科」として試験的に発刊されてから最後の変型大型判「男子専科：Dansen」まで、本誌を信じてメンズファッションのAからZまでを学んだ大人の男たちは数えきれない。いまだにこれを「ベストバイブルだった」と評する男たちは山ほどいる。(石辺啓道)

* 12号(昭29.3)までは「スタイル臨時増刊」の表示あり。1970年7月号よりローマ字「DANSEN」をサブタイトルに起用



1990年11月号「英国。眺めのいい世界。」特集号の表紙



同「英国。眺めのいい世界。」特集ページのこま